

報道機関各位

熊本大学

**第8回 熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター講演会
沿岸域環境科学の最前線 - 基礎研究から保全・再生・防災まで -**

有明海・八代海は、熊本県民にとってなじみ深い海で、貴重な海産生物が多く生息する広大な干潟が広がっています。しかし、近年、生物多様性の減少、漁獲量の激減、赤潮の多発、台風による高潮災害など、数多くの問題が発生しています。

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センターでは、有明海・八代海を中心とする沿岸域環境に関する幅広い教育研究活動が行われています。センターの研究成果を広く市民の皆様へ公開し、地域に還元することを目的として開催される本講演会では、沿岸域環境に関する基礎研究から応用分野の保全・再生・防災まで、多岐にわたる話題提供が行われます。また、センター教員以外に、客員教授や長崎大学の学外協力者からも話題提供が行われます。

つきましては、広く一般の方へお知らせいただくとともに、当日の取材方、よろしくお願いたします。

記

【日時】平成22年1月23日(土) 13:00～17:30

【場所】熊本大学工学部百周年記念館(熊本県熊本市黒髪2丁目39-1)

【対象】熊本大学、国及び熊本県関係者、一般市民 160名(定員)

(事前の申し込みは必要ありません。入場料無料)

【内容】開会 13:00～

講演 13:10～17:30

(熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター教員、客員教授、学外協力研究者)

閉会 17:30

詳細は本学のホームページにも掲載されております

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

【お問い合わせ】

熊本大学研究・国際部研究支援課

電話：096-342-3143

沿岸域環境科学の最前線 —基礎研究から保全・再生・防災まで—

第8回 熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター講演会

日時 2010年1月23日(土) 13:00~17:30

会場 熊本大学工学部百周年記念館
熊本市黒髪2-39-1 (熊本大学黒髪南地区)

入場無料 定員160名

■ 開会

13:00~13:05 挨拶：嶋田 純 (熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター長)

■ 講演 / 13:10~17:30 (講演：25分, 質疑：5分)

13:10~13:40 「スナガニ類の巣穴が小型底生生物の微小空間分布に与える影響」

嶋永 元裕 (生物資源循環系解析学分野 准教授)

13:40~14:10 「有明海における1960年代以降の底質変化」

秋元 和實 (水・地圏環境科学分野 准教授)

14:10~14:40 「養殖ノリの重金属ストレスに対する応答機構」

瀧尾 進 (生物資源保全・開発学分野 教授)

14:40~15:10 「アオノリの繁殖におけるリズム現象」

桑野 和可 (長崎大学大学院生産科学研究科 准教授; 学外協力研究者)

15:10~15:30 休憩 (20分)

15:30~16:00 「沿岸帯における環境保全・自然再生の「工夫」を探る
— 有明海と他海域の比較から —」

五明 美智男 (沿岸域社会計画学分野 客員教授)

16:00~16:30 「ハマグリ資源管理技術の開発」

逸見 泰久 (生物資源循環系解析学分野 教授)

16:30~17:00 「熊本県を対象とした水処理技術システム導入による環境効率の評価」

村野 昭人 (沿岸域社会計画学分野 客員准教授)

17:00~17:30 「有明・八代海の環境特性と再生への技術開発

— 有明海沿岸干潟域における生物生息場の「回復」・「創成」・「工夫」による自然再生へ向けた取り組み —」

滝川 清 (水・地圏環境科学分野 教授)

■ 閉会 / 17:30

■ 司会進行 / 逸見 泰久

■ 共催

熊本大学拠点形成 B:「閉鎖性沿岸海域における環境と防災、豊かな社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成」研究班

お問い合わせ

熊本大学 研究・国際部研究支援課
研究センター支援担当
TEL:096-342-3143(直通)